

国立病院機構熊本医療センター

No.192



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



病院ホームページをリニューアルしました!



患者様をご紹介頂く際は、こちらをクリックして下さい。受診までの流れ、外来担当医表、診療情報提供書兼紹介状の書式等を掲載しております。

病院のホームページが新しいデザインとなりました。

ほとんどの方が“病院”=“怖い”“冷たい”というイメージをお持ちだと思いますし、患者様は病気に対する不安を抱えていらっしゃると思います。その恐怖心や嫌悪感を少しでも拭い去り、“病院”=“癒し”という患者様に優しいイメージを持っていただけるよう温かい雰囲気デザインのデザインに一新しました。

(副院長 高橋 毅)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「開業して22年目」

藤木皮膚科クリニック
院長 藤木 崇弘



私は熊本市呉服町で皮膚科を開業しております。父の急逝後、医師になってわずか5年しか経っていませんでしたが、入院病床をもち、職員も数十人以上の皮膚科には珍しいやや規模の大きな病院の理事長、院長の2代目に就任しました。入院では、類天疱瘡、中等症の熱傷、疼痛管理が必要な帯状疱疹、中毒疹、乾癬などの患者さんを診ておりました。また木曜日の午前は手術の枠をとり、手術可能な患者さんは積極的に手術を行っておりました。また、父親の信念を継ぎ、24時間体制で救急患者も可能な限

り対応し、夜間も熱傷や蕁麻疹や外傷の患者さんの診療を行っておりました。もちろん、すべてを一人でこなすことはできませんので、当時勤務されていた麻酔科医や、当時手伝ってくれた、医師である母親や弟、内科医である妻の助けもあり、なんとかやっておりました。しかし、当院では対応できない重症の皮膚疾患の患者さんも当然いらっしゃるわけで、そういった場合、公的総合病院にご紹介させて頂いたり、治療方針をご教示頂いたりして継続することができました。以前長く皮膚科医長として勤務された前川先生には、何かとお世話になり、今でも大変感謝しております。他科の先生方にも様々なことで何度もお世話になり、感謝しても感謝しきれないくらいです。しかし、がんばりにも限度があるようで、私は開業後8年目から、2回ほど体調をくずし、その後は体調を気遣わざるを得なくなりました。24時間体制や入院をやめ、開業して22年目の現在は、外来のみの診療を続けております。皮膚科では浅尾先生、現在の医長の牧野先生にも大変お世話になり感謝しております。手術も最近ほとんど行わなくなり、形成外科の大島先生には比較的小さな皮膚科手術も含め、たくさんの患者さんをご紹介させていただいております。お忙しい中、申し訳ないと思いつつも、大変有難いと感謝しております。今後もお世話になると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床研修説明会について

平素は研修医の地域医療研修等についてご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。現在、当院では、医学生を対象として病院見学会を毎金曜日に行っております。さて、この度当院における次年度の臨床研修に向けて、医学生のための臨床研修説明会を下記の通り実施することになりましたのでご通知申し上げます。

説明会では指導者および研修医も参加し、医学生との意見交換も行われます。病院機能や研修内容等について紹介し、また、理解してもらう良い機会ですので一人でも多くの医学生に参加して頂きたいと思っております。熊本医療センターでの研修に興味をお持ちの医学生がおられましたら、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

(教育研修部長 大塚 忠弘)

医学生のための臨床研修説明会

日時：平成25年6月8日(土) 13:00~17:00

場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール

2013 診療科紹介 (60) 整形外科



部長
橋本 伸朗
整形外科一般、脊椎外科
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会臨床認定医



医長
福元 哲也
関節外科（膝関節・股関節）
外傷外科
日本整形外科学会専門医



医長
前田 智
関節外科（肩関節・股関節）
外傷外科
日本整形外科学会専門医



医長
中馬 東彦
整形外科一般、関節外科（膝関節・
股関節）、外傷外科
日本整形外科学会専門医

診療内容と特色

近年、医療機関の機能分化が進み、医療連携なくして医療は行えなくなってきました。急性期医療を担う当院整形外科では、手術的治療が中心となっています。従って、術後リハビリテーションを要する多くの症例は、リハビリテーション施設へ転院治療をお願いします。医療の標準化・質の向上を目指して53種類のクリティカルパスを作成し、現在、入院症例のほぼ全例に使用しています。地域連携クリティカルパスを連携施設と作成・活用し連携医療の質向上に努めています。



医長
松下 任彦
整形外科一般、外傷外科
日本整形外科学会専門医



医長
高田 興志
整形外科一般
日本整形外科学会専門医



医師
楊 拓也
整形外科一般

診療実績

平成24年度の整形外科手術件数1,060件の内訳をみると、疾患別では、骨折に対する骨接合術が半数以上を占めていますが、脊椎手術が155例、人工股関節置換術が54例、人工膝関節置換術が74例、大腿骨人工骨頭置換術が121例でほぼ、前年と同数でした。平成24年度の整形外科新外来患者数は2,473名、入院患者数は1,202名で、平均在院日数は13.0日でした。

研究実績

QOL向上のための人工関節置換術、脊椎手術を中心とした低侵襲手術の臨床研究を続けています。これらの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びついた研究としても発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、大腿骨近位部骨折の予防、臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。

共同研究では、胸腰椎、椎体骨折に対する後方矯正術に参加しています。

外来紹介

放射線科



放射線科外来スタッフ

ヴィルヘルム・レントゲンがX線を発見してから約120年、放射線は人類にとってなくてはならない存在となっています。医療においては病気を診断・治療するうえで重要な役割を担っています。

当院放射線科は医師6名、診療放射線技師22名、看護師7名、クラーク3名が日々連携をとり合いながら各部門の業務を行っています。平成24年度の放射線業務量は、CT24,384件（前年度比103.1%）、MRI16,815件（前年度比107.8%）と増加しています。日進月歩で向上するスタッフの技術や機器の性能に後押しされ、検査・診断のほか治療や緩和など放射線の担う役割は多岐に渡り、無限の可能性に期待を感じる一方、身の引き締まる思いでもあります。

平成23年3月の東日本大震災は記憶に新しいところですが、国民の放射線に対する関心が高まる中で様々な情報が交錯し、しばしば混乱を招いている様子も見受けられます。

放射線に携わる者として正しい知識を提供し、国民が安心して適切に放射線と関わっていけるよう手助けをするのも大切な責務であると心得ております。

ご不明な点は何でもお尋ねください。今後ともよろしく願いいたします。

（放射線科外来看護師 白石 奈津子）



放射線治療スタッフ



受付窓口



血管造影の様子



読影の様子

熊病の歴史

麻酔科

日本の麻酔の歴史は、江戸時代まで遡ります。和歌山県、紀州の花岡青洲が、1804年に世界で初めて全身麻酔に成功しています。乳癌手術に朝鮮朝顔（日本麻酔科学会のシンボルマーク）から作った麻沸散（通仙散）を用いて150例ぐらい実施しています。

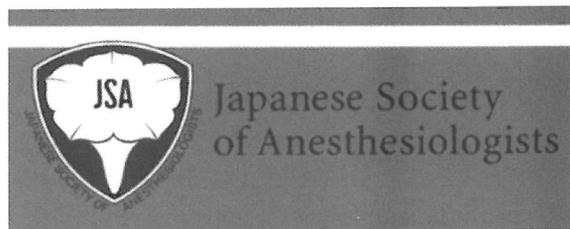
その状況は、「花岡青洲の妻」に記されていますが、悲しいことにその手技は秘儀として隠され世の中に広まることは、ありませんでした。世界では、遅れて5年後にクロロホルム、エーテルの開放点滴全身麻酔が一般的になっています。その後の日本の麻酔科学の発展は、終戦を待たなければなりません。1950年の日米連合医学教育者協議会のM.Sakladの「気管内挿管吸入麻酔」の講演は、異圧か平圧かの論争を行っていた日本の胸部外科の医師にとってペリー来航以来の驚きであったようです。その刺激は、その後の外科からの麻酔科の独立および日本麻酔科学会の設立に繋がっていきます。

この流れの中で熊本県に近代麻酔を持ち込まれたのは、熊本大学医学部麻酔科初代教授森岡亨先生（昭和40年就任）に始まります。新薬の筋弛緩薬を自分に射たれて効能の実験をされたのは、有名な話です。最近、私がうれしかったことは、先生の研究テーマである生命維持のための膜型肺の研究「ECLA」が、現在その言葉と臨床成果に関して脚光を浴びていることです。私自身もその研究に従事し、先生より学位を授けられました。森岡先生が輩出された麻酔科医の弟子としては、熊大の寺崎秀則教授、新潟大学の下地恒毅教授、名古屋市立大の勝屋弘忠教授、久留米大学の加納龍彦、牛島一男教授、信州大学の岡元和文教授、琉球大学の須加原一博、久木田一朗教授、東京医科大学の田上正教授など、たくさんいらっしゃいます。

国立熊本病院の麻酔科の歴史は、昭和57年に先生の弟子である富山医科薬科大学の助教授でいらっしゃった宮崎久義先生が、熊大医局からの初代の医長として赴任されたことから始まります。それまでの麻酔は、外科の二宮新、光野利英先生が担当されていました。赴任以後からは、大学との人事交流が進み、私自身も昭和60年から2年間、そして平成2年から再び赴任して現在に至っています。平成4年からは、宮崎先生の院長就任と共に私が2代目の医長を任されました。宮崎先生の事は、みなさんもお存じのように麻酔科医というより熊病の院長先生として病院の再建にご尽力され、輝かしい実績を残されました。その一手段として

救急医療を熊病に導入されました。麻酔科は、年々増え続ける手術症例数に対して、大学に職員の増員をお願いして当時3名だったのを現在6名までに増やしてもらいました。麻酔管理症例が救急を開始した当時2100例だったのが現在3800例までに増加しています。また、安全を期するため最新のモニターを装備し、麻酔の方法も吸入麻酔から完全静脈麻酔法へ変化してきました。一方、私自身は、当時、救急患者の受け入れのための体制・機器整備とともに、高度救命のために救急専門医の資格取得にも努力しました。疲れた仕事の中で救急医学の勉強と資格試験を受けに行ったのを思い出します。一方、この定員増のなかで平成6年より瀧賢一郎先生を迎え、集中治療部の管理・運営を、平成16年に赴任した上妻精二先生にはペインクリニック、緩和医療に従事してもらっていました。しかし、残念なことに平成24年に退職されたのでその後を宮崎直樹先生に担当してもらっています。他に、麻酔科医は、手術部の管理はもとより中央材料・滅菌室、ME室の管理運営にも携わっています。このように、熊病の麻酔科医の活躍の場が、いろんな分野に広がって来たことが、一つの歴史を作っているのだと実感しています。

【前麻酔科部長 江崎 公明】



▲日本麻酔科学会シンボルマーク



◀朝鮮朝顔

最近のトピックス

「当科における 腹腔鏡下手術について」



外科医長

森田 圭介

胆石症に対する腹腔鏡下手術が1990年に日本で初めて行なわれ、当院でも様々な病気に対して腹腔鏡下手術を行い、現在は食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性疾患や胆石症、胃・十二指腸潰瘍などの良性疾患に対する腹腔鏡下手術を積極的に行っております。2012年度には総手術例914例のうち272例（約29.7%）の症例に対して腹腔鏡下手術を行い、その数は年々増加傾向であります。今回は当院で行っています、腹腔鏡下幽門側胃切除術について説明します。

従来の胃癌に対する開腹手術は、約20～25cm程の大きな傷を要する手術でしたが、腹腔鏡下手術では臍部に2cmほどの穴を開け、周りに小さな穴を4カ所あけて、鉗子を用いてテレビモニターを見ながら、リンパ節郭清を伴う胃切除術を行います。胃を取り出すために、臍部の創を約3～4cmに延長し、標本を摘出します。吻合につきましては、デルタ吻合と呼ばれる体腔内吻合を行うことで、従来の上腹部切開創（約5cm）を省略することが可能となりました。ただ、すべての胃癌の患者様で腹腔鏡手術ができるわけではなく、はじめは早期胃癌に限って行って行っていたが、徐々に適応を拡げています。

また胃癌の手術に伴う合併症には、出血、感染や縫



特殊な鉗子を用いて、胃の周りの血管を処理しているところです。

合不全等がありますが開腹手術と比べ発生頻度はかわりません。この手術は患者様にとってメリットが多い手術で、最大のメリットは、開腹手術と比べて傷が小さく、痛みが少ないことや、早期退院や早い社会復帰が可能であることが多いことです。ご紹介頂きました患者様には、この手術が可能かどうか診断をして、十分なインフォームドコンセントを行うように心がけております。

最後に今回ご紹介いたしました手術はすべての病気に対して行えるわけではなく、また全国的にも普及に伴い、腹腔鏡下手術に特有な合併症の報告もあります。2005年には日本内視鏡外科学会が腹腔鏡下手術の技術向上と安全性を高めるため日本内視鏡外科学会技術認定医制度が作られました。当院では日本内視鏡外科学会技術認定医による安全な腹腔鏡下手術を提供しており、患者さんへ最良の医療を提供できるようにスタッフ一同、最善の努力をいたします。

ご紹介頂く先生方におかれましては、今後ともご高配のほど、宜しく願い申し上げます。

新任職員紹介



麻酔科
ひぐち たくし
樋口 拓志

4月からこちらにお世話になります。以前にも急性期の病院で働いたことがあり、その頃は「若さで頑張ります！」といった気持ちでしたが、今回は、以前とは違う責任感や役割の重さも感じています。緊急手術も多いと思いますが、早く仕事に慣れ、まわりの先生の力になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



産婦人科
やまもと なお
山本 直

深く取り組みたいと考えるようになりました。また、最近（对患者）コミュニケーションの大切さを再認識しまして、コミュニケーション技術研修会という研修会に参加してきました。そこで、技術や知識だけでは本当の意味で患者さんを救えないと考えるようになりました。特に、悪性腫瘍などの患者さんは、今後の未来に不安を抱えておられます。命だけではなく心まで救える医師となれるよう日々努力をしていきます。

数多くの症例が集まる熊本医療センターで、一人前の婦人科腫瘍医を目指します。どうぞよろしくお願い致します。

出身は愛知県、佐賀大学医学部を卒業し、地元の豊橋市民病院で2年研修後、熊本赤十字病院で産婦人科として4年間勤務をしてきました。熊本赤十字病院では腹腔鏡下手術や悪性腫瘍の手術を経験しまして、婦人科悪性腫瘍について技術的にも知識としても、より



麻酔科
かじはら なみえ
梶原 那美恵

平成21年に熊本大学を卒業後、熊本大学医学部附属病院、球磨郡公立多良木病院で2年間の初期研修を経て、熊本大学麻酔科に入局し、熊本大学医学部附属病院、熊本市市民病院でそれぞれ1年間勤務致しました。

当院での予定・緊急手術の症例数は増加していると伺っております。まだまだ修行中の身でありご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、質の高い麻酔管理を目指して頑張っていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

平成25年4月より麻酔科で勤務させて頂くことになりました梶原那美恵と申します。



麻酔科
よしだ こうじ
吉田 拓二

この度、4月より熊本医療センターに勤務することになりました麻酔科の吉田拓二と申します。今回同病院での勤務は初めてで慣れないことも多いですが、新しい環境に刺激を受けながら日々の業務に従事しています。僕は麻酔科ですので、開業医の先生とお会いする機会は少ないと思いますが、緩和医療・ペインクリニックで一緒することがありましたら、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



皮膚科
にし はつき
西 葉月

皮膚科の外来診療を担当することになりました西葉月です。熊本医療センターに赴任する前は熊本労災病院皮膚科に勤務していました。当院が建て替わる前にもこちらで働いていたことがあり、再び勤務することができてうれしく思っています。一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



眼科
みやざき ようこ
宮崎 洋子

この度熊大附属病院より参りました、眼科の宮崎と申します。

平成13年熊本大学卒業で2児の母です。当院では全身疾患と関連する幅広い領域の患者さんを診察させていただく機会が多く、その責任を痛感しております。少しでも患者さん・スタッフの皆様のお役に立てますよう、精一杯頑張っていきたいと存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

新任職員紹介



歯科口腔外科

もり くみ こ
森 久美子

平成25年4月1日より歯科口腔外科で勤務させていただくこととなりました森久美子と申します。歯科医師になって6年目になります。地元は北九州で、九州歯科大学で臨床研修修了後、平成25年3月に九州歯科

大学大学院卒業、学位取得しました。大学院では口腔外科を専攻し、口腔がん検診の開発をテーマに研究をしてきました。

当病院では救急があり、患者も多く忙しいと聞いており、とても緊張していますが、患者様だけでなく、先生方にも信頼されるように頑張っていきたいと思っております。また、新しい環境での生活にも早く慣れていきたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い致します。



精神科

やまぐち たつ や
山口 達也

この度、国立病院機構熊本医療センター精神科に4月から赴任することになりました山口達也と申します。熊本大学医学部附属病院と天草地域医療センターにて

2年間の初期研修を修了後、熊本大学神経精神科に入局し大学病院で1年間勤務いたしました。その後、熊本県立こころの医療センターで2年間勤務させていただいておりました。

長らく総合病院での勤務から離れており、右も左もわからない状態での勤務になると思います。先生方をはじめ、看護師、薬剤師などスタッフの方々の助けを借りながら頑張っていく所存です。諸先生方には大変なご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



外科

おおうち まゆ こ
大内 繭子

こんにちは。外科の大内と申します。4月から熊本

医療センターでお世話になることになりました。私は研修医として2年間、熊本医療センターで働いていましたので、2年ぶりに戻ってきました。医師として初めて働いた病院で、外科医として働けることをとても嬉しく、楽しみに思っています。

少しは成長したとだけ思えるように頑張ります。多々、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願ひします。



精神科

かわはら かず ひろ
川原 一洋

こんにちは。4月から国立病院機構熊本医療センターに勤務させていただくことになりました川原一洋と申します。順天堂大学卒業後、平成21年4月から熊本医

療センターにて初期研修をさせていただきました。その後、熊本大学医学部附属病院・神経精神科に入局し、大学病院、県立こころの医療センターに各1年ずつ勤め、今年で3年目になります。熊本医療センターは、私の医師としてのスタートを切った場所です。精神科の救急症例も多く、忙しくなりそうですが、初心忘るべからずの精神で、熊本の医療に貢献できるように頑張りたいと思っております。皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



外科

ふじ き よしたか
藤木 義敬

平素お世話になっております。この度、済生会病院より異動となりました外科の藤木と申します。現在、外科修行のため熊本医療センターで日々修行を積んでおります。専門は、乳腺・内分泌外科でありますので、乳腺疾患、甲状腺疾患等ありましたら是非ご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひいたします。

新任職員紹介



泌尿器科
矢野 大輔

今年4月から泌尿器科に勤務させていただくこととなりました矢野大輔と申します。

平成21年熊本大学医学部を卒業し、2年間当院国立病院機構熊本医療センターで初期臨床研修終了後、平成23年4月に勤務地はそのまま熊本大学泌尿器科

へ入局し、その後大学病院で1年間勤務後、再度当院へ戻って参りました。以前の当院での生活は公私共に充実しておりました。

泌尿器科は悪性腫瘍から男性の夜の悩みまで幅広い領域をカバーしております。特に当科を受診される患者さんは恥ずかしさもあり、切実に悩んでおられますので患者さんに寄り添った診療を行うように日々心がけております。

まだまだ医者としては未熟者で、ご迷惑おかけすることも多々あるかとは思いますが、“元気ビンビン”で頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



精神科
今井 正城

はじめまして、今年の4月より精神科で勤務させていただくことになりました今井 正城（いまい まさき）と申します。県南の人吉市出身です。平成22年に

熊本大学を卒業し、熊本市市民病院と熊大病院で2年間の卒後臨床研修を終了しました。平成24年4月に熊本大学医学部付属病院神経精神科に入局し大学病院で1年間勤務しました。県内屈指の救急病院である当センターで精神科救急をはじめ、多くの症例を経験させていただくことにより、幅広く深い知識が持てるように研鑽を深めてまいりたいと思っております。未熟な点が多く、精神科の先生方をはじめ、他科の先生方には何かとご迷惑をおかけすることもあるとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



外科
北野 雄希

初めまして、今年からお世話になります北野と申します。4月より熊本大学病院消化器外科から熊本医療センターへ移動となりました。医療センターは、県内

ではトップクラスの症例数と聞いておりますので、悪性腫瘍の治療はもちろんですが、良性疾患や救急疾患の治療も含め幅広く経験していければと考えております。また、医療センターは多くの初期研修医の先生を採用していることもあり、後輩の育成にも力を入れ、一人でも多くの先生に外科の楽しさを分かってもらえればと思います。自分としてもこれからたくさんご迷惑をお掛けするかと思っておりますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



皮膚科
久保 陽介

平成25年4月より皮膚科医として勤務させて頂くことになりました久保陽介と申します。平成22年3月に

熊本大学を卒業し、国立病院機構熊本医療センターで1年、熊本大学医学部附属病院で1年初期研修を行い、平成24年4月に熊本大学医学部附属病院皮膚科形成再建科に入局し大学病院で1年間勤務しました。外界と体内を隔てる皮膚の様々な変化に魅力を感じ皮膚科に進みましたが、現在慣れない外来診療に四苦八苦しております。まだまだ未熟で、ご迷惑ばかりおかけすると思っておりますが、地域医療の一翼を担うべく一所懸命頑張りますのでご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



糖尿病・内分泌内科
坂本 和香奈

平成25年4月1日より、糖尿病内分泌内科でお世話になることとなりました坂本和香奈と申します。

平成22年に近畿大学医学部を卒業しまして、近畿大

学医学部付属病院で2年間卒後研修を行いました。平成24年より熊本大学医学部付属病院代謝内分泌内科で1年間勤務しておりました。医師としては、今年で4年目となり、代謝内分泌内科を専門としては、2年目となりました。まだまだ医師として未熟ですが、国立病院は救急疾患が多く、非常にやりがいのある職場だと伺っております。実りある時間を過ごし、医師として研鑽を積んでいきたいと考えております。

ご迷惑をかける点もあるかと存じますがよろしくお願ひいたします。

新任職員紹介



腎臓内科

 みか しま かおり
三ヶ島 歌織

はじめまして。この度、国立病院熊本医療センター腎臓内科に赴任することになりました三ヶ島歌織と申します。平成22年に久留米大学を卒業し、実家があり

ます熊本に戻ってまいりました。熊本大学医学部附属病院で2年間の研修を行った後、平成24年に熊本大学腎臓内科に入局いたしました。今年度から国立病院機構熊本医療センターで勤務することになり、救急疾患が多い病院での勤務に大変不安を感じております。しかし、大学病院とは異なる様々な症例を経験することで自分自身も成長できるよう頑張っていきたいと思っております。まだまだ未熟者でご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、御指導御鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



泌尿器科

 め かる しんご
銘苅 晋吾

平成25年4月より泌尿器科で勤務しております銘苅(めかる)晋吾と申します。

平成22年に熊本大学を卒業し、2年間の初期研修後

平成24年に泌尿器科に入局しました。その後は熊本大学病院で1年間勤務し、熊本医療センターで働かせていただけることになりました。

当院は手術症例が多く、また救急病院ならではの症例を経験できる病院とかがっており、非常にやりがいのある職場だと考えております。まだまだ未熟な点が多く、また病院のシステムにも不慣れなため、皆様にはご迷惑を多々おかけするかと思っておりますが、日々精進していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



消化器内科

 もちなが たかほ
持永 崇恵

初めまして、今年度より熊本医療センターの消化器内科に勤務させていただくこととなりました、医師4年目消化器内科医の持永崇恵と申します。

私の簡単な経歴ですが、岡山県にある川崎医科大学を卒業後、地元である熊本に戻り、熊本大学附属病院

で2年間初期研修をし、その後、熊本大学消化器内科に入局させていただきました。初期研修2年間のうち、救急研修としてこちらで3か月研修させていただいており、今年度よりまたこちらで勤務することが決まり、本当に嬉しく思っております。まだまだ医師としても人間としても未熟者ではございますが、熊本医療センターの職員の皆様方から愛されるような医師を目指して、日々精進してまいりますので何卒宜しくお願い申し上げます。なお余談ではございますが、昨年度は小児科医である兄が大変お世話になりました。兄弟共々、これから先も宜しくお願い申し上げます。



整形外科

 やん たくや
楊 拓也

はじめまして。この度、4月より熊本医療センター整形外科に勤務することになりました楊拓也(やんたくや)と申します。

平成22年に山口大学医学部を卒業し、熊本医療センターで2年間の初期研修を終えました。その後熊本大学医学部整形外科に入局し、1年間の大学病院勤務を経て戻ってくることとなりました。初期研修の思い出としては、非常に救急の忙しい病院で、夜間も多くの患者さんが搬送されていたことが思い出され、今から気持ちの引き締まる思いです。まだまだ未熟者で、地域の先生方にもご迷惑をおかけすることもあるかと思っておりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



小児科

 ひらえ けんじ
平江 健二

はじめまして。小児科レジデントの平江 健二と申します。私は大分大学医学部を平成23年に卒業後、熊本大病院のA2プログラムにて1年間大学病院で、その

後1年間熊本医療センターで研修させていただき、今年4月より熊大小児科に入局し半年間引き続き熊本医療センターでお世話になることになりました。本院で継続して仕事をさせていただける機会を得られたことに感謝しつつ、4月より小児科医となり、まだまだ慣れないことに戸惑いながら診療を行っております。皆様に少しでも頼られる小児科医となるよう、日々研鑽して参りたいと思っております。

まだまだ世間知らずの未熟者ですが、どうぞよろしくお願い致します。

■ 研修のご案内 ■

第77回 特別講演（無料）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年6月13日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター 副院長 高橋 毅

「生活習慣よりみた消化器疾患・肝疾患」

熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学教授

佐々木 裕 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

第173回 月曜会（無料）

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年6月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「IV-tPA後の急性下肢動脈閉塞をきたした脳梗塞の症例」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長

幸崎弥之助

4. ミニレクチャー「甲状腺クリーゼについて」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

坂本和香奈

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第141回 三木会（無料）

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成25年6月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「腎機能低下がありASOと糖尿病足病変を合併した2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

深田理沙、坂本一比古、渡辺美穂、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「拡張型心筋症の治療中に測定値の上限を超える著名な甲状腺ホルモン高値と呈したバセドウ病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

坂本和香奈、深田理沙、坂本一比古、渡辺美穂、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

第126回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成25年6月26日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「呼吸器内科・胸部外科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長

柏原 光介

国立病院機構熊本医療センター外科部長

宮成 信友

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第32回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成25年6月29日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：あけぼのクリニック理事長

松下 和孝 先生

演題：「腎臓病の基本」

1. 蛋白尿とeGFRなど

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科

梶原 健吾

2. 糖尿病

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田 正郎

3. 腎生検

熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教

白石 直樹 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

2013年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研修室	その他
3日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
4日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
5日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
6日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理(血液ガスの読み方)」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 20:00~21:30 第63回 医歯連携セミナー 「歯科領域に隣接する精神疾患の診断と治療」 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 渡邊健次郎		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
10日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
11日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
12日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
13日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理(人工呼吸器の使い方)」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 19:00~20:30 第77回 特別講演 「日本医師会生涯教育講座1.5単位認定」 「生活習慣よりみた消化器疾患・肝疾患」 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学教授 佐々木 裕		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
15日(土)	9:30~16:00 第32回 ナースのための心電図セミナー (講演)心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 (実習)心電計の取り扱い方 19:00~20:30 第173回 月曜会 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 末原内科循環器科 院長 藤本 久和 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 他	
17日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
18日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
19日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
20日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「意識障害の考え方」 国立病院機構熊本医療センター神経内科学長 田北 智裕	19:00~20:45 第141回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2研>0.5単位認定]	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「急性肝炎について」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
22日(土)	14:00~16:00 第246回 滅菌消毒法講座 「滅菌の基礎 ~超カタン基本のキツからもう一度~」		
24日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
26日(水)	18:30~20:00 第126回 救急症例検討会 「呼吸器内科・胸部外科救急疾患」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
27日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸液の実践」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス C2 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス 消
28日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
29日(土)	15:00~17:30 第32回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 あけぼのクリニック理事長 松下 和孝 「腎臓病の基本」 1. 蛋白尿とeGFRなど 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 梶原 健吾 2. 糖尿病 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎 3. 腎生検 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 白石 直樹		
30日(日)	13:00~17:00 第27回 臨床薬理セミナー 「感染症とその対策」 1. 院内感染対策と抗菌薬の使用 2. 小児感染症とワクチン 3. 抗菌薬の使用法とTDM	[日本医師会生涯教育講座3.0単位認定] [日本薬剤師研修センター認定研修2.0単位認定] 国立病院機構九州医療センター総合診療科長/感染症制御部 岸原 康浩 福岡歯科大学総合医学講座小児科学分野教授 岡田 賢司 兵庫医科大学感染制御学主任教授 竹末 秀生	

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)